



# 文化学園長野中・高が加盟する「ユネスコスクール」の ユネスコってなんでしょう？

ここが  
知りたい！

ユネスコは正式名称を「United Nations Education, Science and Culture Organization(UNESCO)」といい、日本語では「国際連合教育科学文化機関(こくさいれんごう きょういくかがくぶんかきかん)」と訳されます。世界193の国が加盟する国連の中の一つの専門機関です。2017年4月、文化学園長野中・高が「ユネスコスクール」の指定を受けてから、7年目となりました。2023年度新入生のみなさんとともに、もう一度ユネスコについて学びなおしてみましょう。

## ユネスコのはじまり

### 世界屈指の研究機関を目指して…

ユネスコの前身は1922年に国際連盟の下に設立された国際知的協力委員会とされており、ドイツの物理学者**アインシュタイン**やフランスの物理学者**キュリー夫人**など、著名な有識者12人が出席しました。その当時国際連盟の事務局次長を務めていたのが、「武士道」などの著書でも有名な日本人の**新渡戸稲造**でした。

国際知的協力機関は、世界屈指の研究機関としてパリで研究所を開設し、戦争の心理的原因の研究、文化財の保護などを手がけていました。しかし、第二次世界大戦の開戦により、その活動は中断されます。

### 研究を、世界平和に生かす

戦時中の1942年、ヨーロッパ各国の文部大臣はイギリス外務省の呼びかけで、連合教育大臣会議を開き、ヨーロッパの教育復興を目指します。やがて、**教育、文化の国際協力で世界平和を築こう**という方向に進んでいきました。第2次世界大戦終結後の1945年11月1日、イギリスとフランスの政府は、ユネスコ設立のための会議を再びロンドンに招集しました。各国代表はこの年の8月に**広島・長崎に核兵器が使われた悲劇を思い起こし、科学が平和のために生かされなければならないことを決意し、新しく生まれようとしている機関で、教育と文化に加えて科学も扱うこと**を決めました。こうして同年11月16日、「悲惨な戦争を2度と起こしてはならない」という理念のもと、**ユネスコ憲章**が採択されました。

翌1946年11月4日、20カ国がユネスコ憲章を批准した時点で憲章は効力を発し、ユネスコが誕生しました。

(参考：公財 ユネスコ協会連盟web, <https://www.unesco.or.jp/>)



インターネットで調べてみよう！  
何をした人だろう？



アインシュタイン



キュリー夫人



新渡戸稲造

## 「ユネスコ憲章」とユネスコの使命

ユネスコの目指すところを示した「ユネスコ憲章」。一番最初の「前文」の部分にまず、「世界の平和」を唱えています。**あらゆる文化を尊重しながら、教育や科学を通じて人々を「平和を追求する人」に育てようとするのが、ユネスコの使命**です。以下に前文を全て掲載するので、ぜひ一度は読んでみましょう！

この憲章の当事国政府は、この国民に代わって次のとおり宣言する。**戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。**

相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信の為に、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教養を広めることによって可能にされた戦争であった。

文化の広い普及と正義・自由・平和のための人類の教育とは、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神を持って、果たさなければならない神聖な義務である。政府の政治的及び経済的取り決めのみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって、平和が失われなければならない。

これらの理由によって、この憲章の当事国は、すべての人に教育の十分に平和な機会が与えられ、客観的真理が拘束を受けずに研究され、かつ、思想と知識が自由に交換されるべきことを信じて、その国民の間における伝達の方法を用いることに一致し及び決意している。

その結果、当事国は、世界の諸人民の教育、科学及び文化上の関係を通じて、国際連合の設立の目的であり、かつ、その憲章が宣言している国際平和と人類の共通の福祉という目的を促進するために、ここに国際連合教育科学文化機関を創設する。

(引用：三田ユネスコ協会web, <https://www.unesco.or.jp/sanda/kensho/>)

## ユネスコスクールとは…

### ユネスコの理想を実現するための学校です

ユネスコスクールは、1953年、ASPnet(Associated Schools Project Network)として、ユネスコ憲章に示された理念を学校現場で実践するため、**国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体**として発足しました。世界182か国で11,500校以上がASPnetに加盟して活動しています。日本国内では、2019年11月現在、1,120校の幼稚園、小学校・中学校・高等学校及び教員養成系大学がこのネットワークに参加しています。日本では、ASPnetへの加盟が承認された学校を、ユネスコスクールと呼んでいます。

また、ユネスコスクールはその活動の質を担保するため「ユネスコスクールガイドライン」を策定しています。そこには、国内外のユネスコスクールの交流を盛んにし、**相手の良さを認め合い、学び合うことや、学校全体で組織的・継続的に活動すること、地域との連携(つながり)など開かれたネットワークを築くこと**などが明示されています。

### ユネスコスクールに加盟すると…

#### 【その1】世界的な学校間ネットワークの一員となります！

ユネスコスクール間の交流のほか、学生や教員を対象とした国際会議や共同プロジェクトに参加することができます。こうしたネットワークを活用した活動は、グローバル人材の育成に繋がります。

#### 【その2】地球規模の諸問題について思考する「持続可能な開発のための教育(ESD, 右図)」推進拠点として、人・モノ・情報が得られ、教育手法の変革と児童生徒の変容に繋がります！

ユネスコスクール事務局やユネスコスクール支援大学間ネットワークから、情報・指導助言、教材などが得られます。学習方法や学習スタイルなど、先生方の教育手法獲得や生徒の変容にもつながることが期待されます。

## ユネスコスクールでの学び

2020年度から導入された学習指導要領には、持続可能な社会の構築の観点盛り込まれ、教育基本法とこの新しい学習指導要領に基づいた教育を実施する一つの手段に「持続可能な開発のための教育(ESD)」が大切だと考えられています。

ESDは「Education for Sustainable Development」の頭文字で、ユネスコの目指す教育の在り方を指しています。下の図に、ESDの目標、何を学ぶか、どのように学ぶかを整理しました。ユネスコスクールでは、ESDの実践校として、様々な学び方で力をつけていきます。



PBL … Project Based Learning (未来教育プロジェクト学習)  
横断的学習 … 分野や科目を超えた知識のつながりを使う学習

図：ユネスコスクールの学び方「ESD」

© C. Enomoto, 2020

<参考・引用> 文部科学省 ユネスコスクール公式ウェブサイト, (<http://www.unesco-school.mext.go.jp/>)  
文部科学省 (2018) 『ユネスコスクールで目指す持続可能な開発のための教育』, 日本ユネスコ国内委員会

# 生徒会・生徒主体の

# 活動の「今」。



## 学校の当たり前は、みんなで変えられる！ ルールメイキングプロジェクト

今年度、本校の校則や生活の決まりを見直すための「ルールメイキングプロジェクト」が高校生および教員の有志30名ほどで立ち上がりました。「制服についての決まりはこれでいいのか」「スマホの使用ルールを緩和できるのか」など、現在のルールの妥当性を検討し、誰もが快適な学校生活を送るために必要な決まりを提案していく予定です。

7月12日の会議では、ルールメイクの本質を考えるため、「民主主義とは何か」「ルールとは何か、何のためにあるのか」「多数決は公正なのか」などを議論しました。「民主主義が根付いていない学校でルールだけを変えようとしてうまくいかない」という実践事例を知り、この学校の土台に向き合って解決しなければならないことが分かりました。「結果を急ぎすぎると大事なことをおろそかにしてしまう。時間がかかっても議論しあい、民主的に進める」と方向を定めました。「どんなルールの在り方がふさわしいのか」を考え、最上位目標としていきます。

### 【生徒会】すみれ祭でSDGsを実践！



【12 つくる責任 つかう責任】リサイクルコーナーを設置  
すみれ祭の展示で利用した資材を来年以降に再利用するため、各クラスの再利用可能な資材を集めました。来年のすみれ祭でも使用していきます！



【10 人や国の不平等をなくそう】民族衣装ファッションショー  
昨年度と同様にJICA駒ヶ根さんから世界の民族衣装をお借りし、国際理解促進のためのファッションショーを行いました。



【3 すべての人に健康と福祉を】  
【17 パートナースhipで目標を達成しよう】  
ヘッドネーションショー



毎年恒例となったヘッドネーションショー。  
今年はヘッドネーションを考えている生徒のインタビューも公開しました。



民族衣装ファッションショー



## SDGsの構造を学び、自分ゴトに… 学園オリジナルSDGsが完成！

中学生徒会では、SDGsに関連する活動を毎年行っています。

今年は「ホールスクール～学校まるごと」をキーワードにしたいと思いました。誰もが過ごしやすい学校・社会をつくるために、みんなで目指せるものがあれば一体感が生まれるのではないかと。ならば学園オリジナルSDGsを製作してみてもどうだろうかと考えました。

まず、中学全校の皆さんから“学校がこうなったらいいな”をアンケートで聞いてみました。集めた意見を執行部で整理し、6つのカテゴリーができたのでこれらをゴールに決めました。



中学玄関と各教室にパネルを掲示

1. 資源の無駄をなくそう	4. 違いを尊重しよう
2. 身の回りの環境をクリーンに	5. 言葉で心をつなげよう
3. 地域も学校も自分ゴト	6. できることから実行しよう

学園オリジナルSDGsは、国連SDGsに倣って設計したいと考えました。国連SDGsは、17個のゴールの下に、ゴールを達成するための具体的な活動を示すターゲットがあります。さらにその下にゴールを達成するために必要な具体的な数値目標を示す指標があるという仕組みになっています。これを学園SDGsに置き換えると、ゴールは生徒皆で目指したい姿、ターゲットはゴールを達成するために行う委員会・クラスの活動内容、そして指標は、具体的な数値目標となります。2学期には、委員会やクラス単位で、ゴール達成への様々な活動を計画・実践していきます！

## TOPICS



### 長野市の課題を市長に提案！自治体連携PBL 発表会

5月18日(木)午後、若里市民文化ホールにて、高校2年生の代表者12組による「自治体連携PBL発表会」を行いました。長野市 荻原健司市長と本プログラムで講師を務めてくださった長野市職員の皆様をお迎えし、市の抱える課題に対する提案をさせていただきました。荻原市長は、スキー選手時代の経験から、グローバルを見聞しローカル(地域)を振り返ることの意義をお話くださいました。長野市職員の皆様からも、お褒めの言葉や具体的なアドバイスを沢山いただきました。高校生の視点で職員の皆様にとっても新しいものであったとのことでした。自分のアイデアが社会を変える可能性に、ワクワクしますね！



#### 早川結菜さん(高2-5)・国際交流・多文化共生の取り組み

今振り返ってみると、本当に大変なことばかりであったと感じます。自分で企画を考え、国際交流コーナーさんに直接お話を聞きに行き、パワーポイントや原稿を考え発表する。自分ひとりでここまでやったことは初めての経験で苦労が多かったですが、引き続き探究を続け、今年度のマイプロジェクト・アワードに参加することにもなりました。今回の探究活動を通して、国際交流や多文化社会について深く知ることができとてもいい機会でした。



#### 池田野々花さん・篠原百葉さん(高2-2)・高齢者福祉・いこいの家の是非

最初に発表者に選んでいただいたときは不安でいっぱいだったのですが、先生と一緒に活動をしていた篠原さんと計画を練っていくうちに楽しくなり、最後は発表を良いものにできた達成感がありました。(池田さん)



探究の活動は正直、大変でした。私達は事例が無い事に取り組もうとしていたので、色々な視点から考える必要がありました。ですが、調べていくなかで初めて知った事も多く、勉強になりました。発表も緊張しましたが、探究活動はとてもいい経験になりました。(篠原さん)



**BGNユネスコニュース** 学校外で面白いことをしている人、他校や社会人団体の人たちとSDGsに関わる活動をしている人など、本校の隠れた逸材を探しています！取材の上、本誌に掲載させていただきます。自薦・他薦は問いません。年中募集ですので、これからの活動も大歓迎です！

★中学職員室 BGN編集担当(長田・榎本)まで教えに来てください！

## 海外研修再開へ

### 高校1・2年生より参加者募集します！



## カンボジア SDGs平和探究 スタディツアー

### 2024年2月16日～23日で催行決定！

※16日は午後長野発、17日深夜日本発、23日は早朝日本着

COVID-19の5類への移行や、海外渡航規制の緩和などを受け、ESD推進委員会では海外研修の再開時期を模索してきました。修学旅行など、全体での研修はまだ見通せない状況ではありますが、2024年2月、希望者に向けた少人数のスタディツアーを実施することになりました。

ロシアのウクライナ侵攻や歴史的円安などが社会情勢としてあり、欧米諸国への渡航は叶いませんが、その影響を最小限に抑えられる東南アジアを訪問先に設定しました。

学校からの補助により、生徒の皆さんの負担(参加費用)は20万円程度に抑えられる予定です(パスポート取得など事前準備にかかる費用は除く)。対象者は、今年度の本校の高校1・2年生で、一連の探究学習が自身で積極的に進められる人です。

訪問国のカンボジアは、20世紀後半のポル・ポト政権により多くの国民が迫害・虐殺された歴史を持つ一方、世界遺産のアンコール遺跡などクメール文化の素晴らしい芸術が残されてもいます。かつてアジア最貧国と言われながら、近年急速に発展している国です。カンボジアのスタディツアーは様々な機関から募集がありますが、それらではまねができないような独自性の高い中身の濃い企画になっています。10代の多感な時期に観光ではないディープなカンボジアを体験することは、人生に大きな影響を与えるはずですよ。

今回の募集人数は10～12人程度としますので、応募書類を提出いただいた後、面接等で選考を行います。参加者は4回の事前学習で各自の興味関心に従って探究学習を進め、現地でインタビューなどのフィールドワークを実施、帰国後にまとめたおち報告会(プレゼンテーション)を実施することを承知の上で応募してください。

なお、来年度の実施については未定ですので、参加したい人はこの機会を大切に、チャレンジしてみてください。応募の方法など詳細については夏休み明けに公開します。

また、高校1・2年生の各学年Teamsに、情報掲載中です。そちらも見てください。

### 訪問先

現在調整中であり、今後変更の可能性もあります。

- プノンペン：キリング・フィールド、トゥールスレン虐殺博物館、現地日本語学校の生徒と交流(市内を一緒に散策)
- シエムリアップ：アンコール遺跡群、アンコール遺跡修復体験、トンレサップ湖水上集落、伝統舞踊鑑賞、学校訪問・交流、地雷博物館、地雷原での地雷処理見学 など

